

住民ニーズ調査結果（概要）

大阪市政策企画室

～調査概要～

（１）調査の目的

今後、高齢者をはじめ、市民の方々が住み慣れた地域で、健康で安心して快適に住み続けられるようなまちづくりを推進するための基礎資料として、モデルエリアでの高齢者等のニーズを把握し分析することを目的とする。

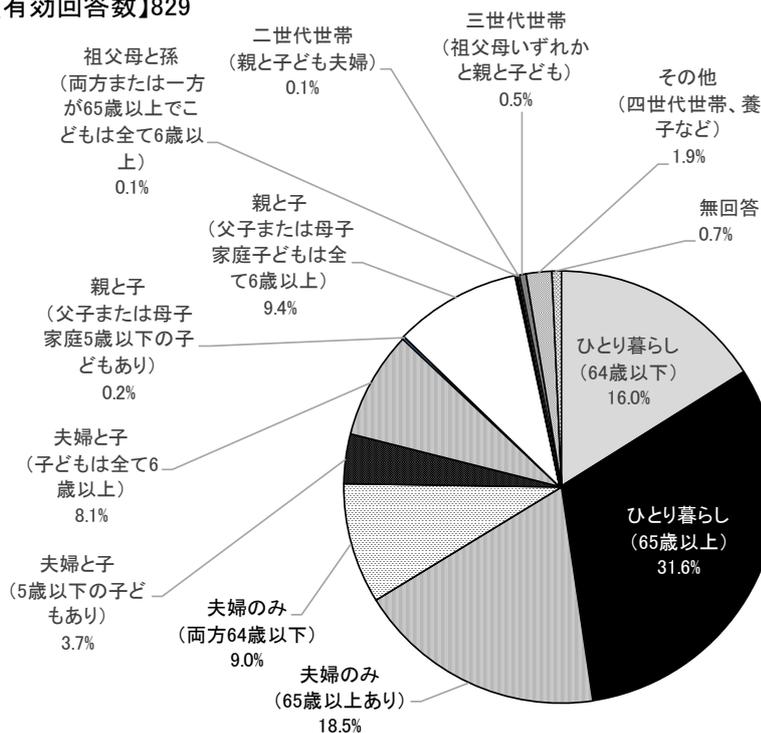
（２）調査の設計

- ①調査対象 モデルエリア内の団地等集合住宅の住民約 3,300 世帯を対象
- ②調査方法 調査票の配布は、郵送又はポスティングによる。回収については、郵送による。
- ③調査期間 平成 27 年 9 月 30 日～10 月 31 日

（３）回収結果

- 1) 配布予定数： 3,331 票
- 2) 実配布数： 3,028 票（空家等があったため）
- 3) 有効回収数： 829 票
- 4) 有効回収率： 27.4%

【有効回答数】829



本調査では、「ひとり暮らし（65歳以上）」からの回答が 31.6%と、**3割以上を占めています。**

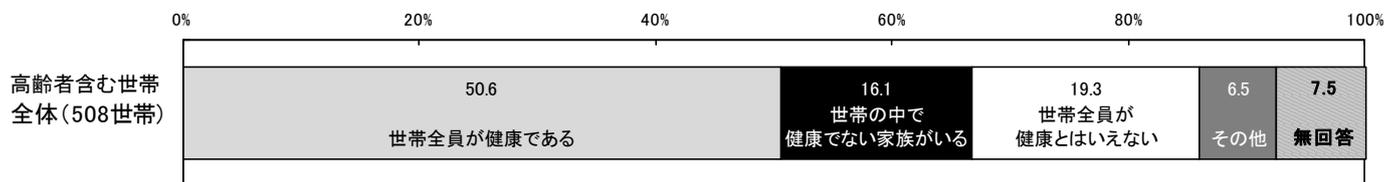


1 調査結果のまとめ

本調査は、人口減少・超高齢社会を見据え、「ヘルスケア」や「エイジング」をキーワードに多様なプレイヤーの参画を得ながら、領域横断的な課題解決型のまちづくりを進める「スマートエイジング・シティ」の具体化に向けて、モデルエリアの住民のニーズを把握し、今後の取組みの参考とするため調査を実施したものです。

(1) 健康状態

・高齢者を含む世帯の健康状態については、50.6%の世帯が「世帯全員が健康である」と回答していますが、一方で、「世帯全員が健康とはいえない」（19.3%）、「世帯の中で健康でない家族がいる」（16.1%）と回答した世帯をあわせると35.4%となり、**3分の1以上の世帯が健康上の問題を抱えていることが読み取れます。**

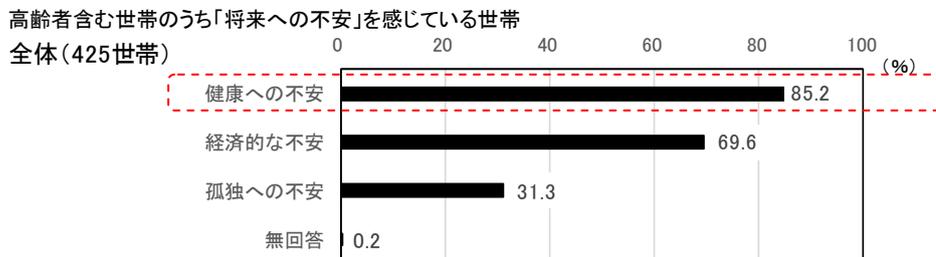


・また、高齢者を含む世帯では、**多くの世帯が健康づくりや介護予防を意識していると答えています。**

(2) 将来への不安とそれをやわらげるためのニーズ

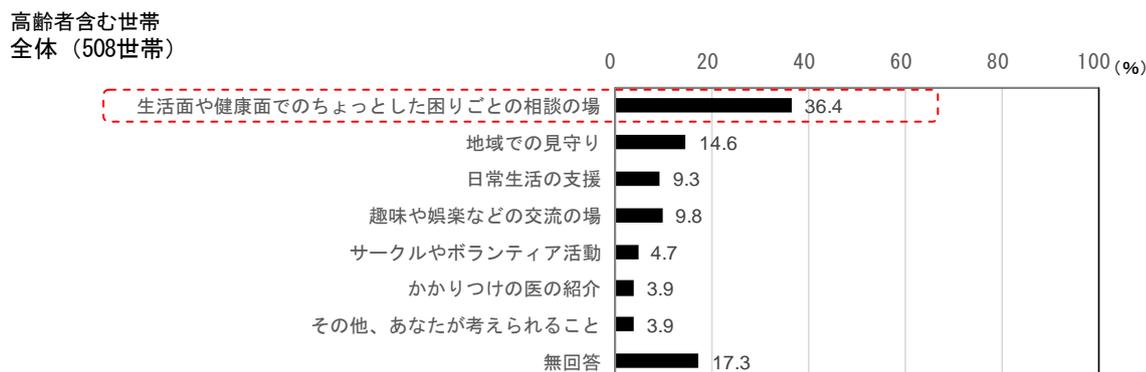
➤ **高齢者を含む世帯が抱える「将来への不安」は、「健康への不安」が最も多い。**

- ・高齢者を含む世帯の8割以上が「将来への不安」を感じています。
- ・「将来への不安」の内容としては、「健康への不安」（85.2%）が最も多く、次いで「経済的な不安」（69.6%）が多くなっています。
- ・さらに、「経済的な不安」の内容としては、「病気になった時の入院費や治療費のこと」が最も多く、経済的な不安と健康への不安が連動していると考えられます。



➤ **高齢者を含む世帯が感じている将来への不安を和らげるためのニーズとしては、「生活面や健康面でのちょっとした困りごとの相談の場」を求める声が最も多い。**

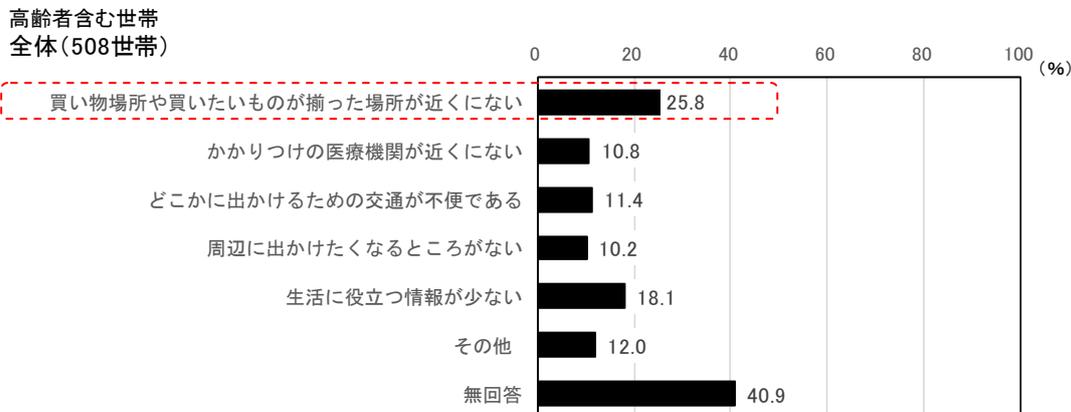
- ・高齢者を含む世帯が感じている将来への不安を和らげるためのニーズとしては、「生活面や健康面でのちょっとした困りごとの相談の場」（36.4%）を求める声が最も多くありました。
- ・また、「日常生活の支援」を望む高齢者が「個人負担を伴っても受けたい日常生活の支援に対するサービス」としては、「健康食など配食サービス」や「健康や病気、お薬のことについてのちょっとした相談」といった健康面を意識したサービスに対する声が多く、「電球交換」、「ごみ出し」など、“ちょっとした困りごと”に対する声も多くありました。



(3) 日常生活で不便に感じていること

➤ 高齢者を含む世帯が日常生活で、最も不便に感じていることは、「買い物場所や買いたいものが揃った場所が近くにないこと」が最も多い。

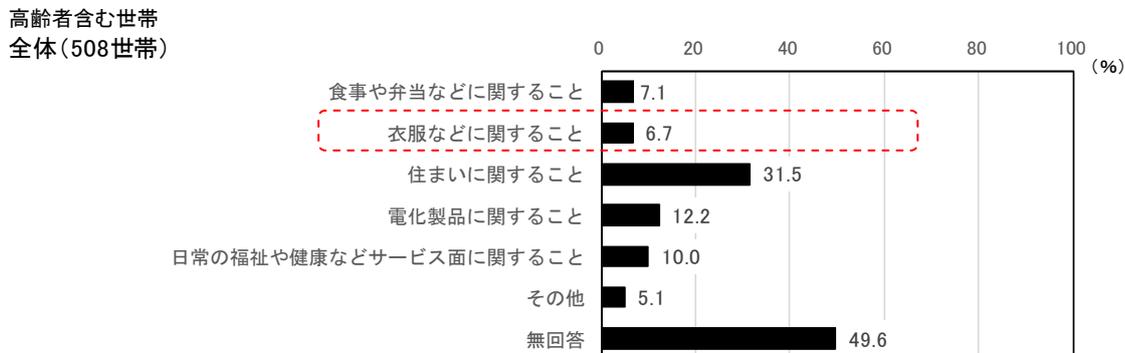
・高齢者を含む世帯が日常生活で不便に感じていることとしては、「買い物場所や買いたいものが揃った場所が近くにない」(25.8%)、次いで、「生活に役立つ情報が少ない」(18.1%) や「どこかに出かけるための交通が不便である」(11.4%) など、「日常生活の利便性」に関する声が多くありました。



(4) 日常生活で不満に感じていること

➤ 高齢者を含む世帯が日常生活で、最も不満に感じていることは、「住まいに関すること」が最も多い。

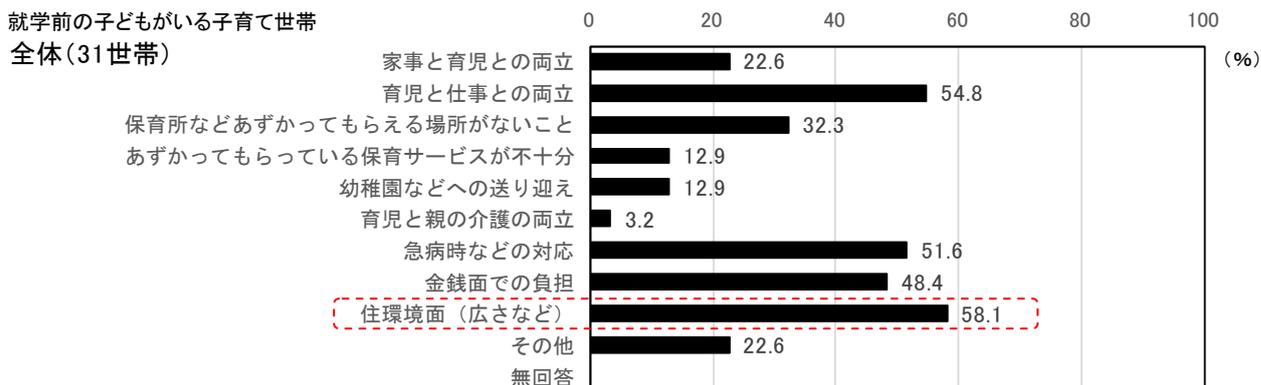
・高齢者を含む世帯が日常生活で不満に感じていることは、「住まいに関すること」(31.5%) が最も多くなっています。
 ・住まいへの不満の内容としては、「機能面」が最も多く、次いで、「広さ」、「その他(家賃等)」の順となっています。



・一方、不満に感じていることとは反対に、「心地よい」と感じられる場所を尋ねたところ、「手頃な価格で食事や喫茶が楽しめる場所」が最も多く、次いで、「健康に役立つ場所」となっています。

(5) 就学前の子どもがいる子育て世帯が感じている不便

・当該エリア内の就学前の子どものいる子育て世帯が感じる不便の内容として多かったのは、「住環境面(広さ)」(58.1%)、「育児と仕事の両立」(54.8%)、「急病時などの対応」(51.6%) となっています。



2 住民から寄せられた意見

本調査では、生活関連施設、若者や子育て環境、まちづくり・都市環境、地域コミュニティに関する意見など、全体で225件の自由意見が寄せられました。

(1) 生活関連施設に関する主要意見

- ・身近な日常生活関連施設として、「銀行、郵便局、交番」などといった生活サービス施設の不足を訴える意見
- ・日常的な買い物ができるスーパー等の商業施設を要望する意見
- ・大人が利用出来る公園やスペース、カフェなど近くに軽い飲食のできる施設を望む意見
- ・予約なしで見てもらえる身近な病院を望む意見

(2) 若者の生活環境や子育て環境に関する主要意見

- ・高齢者が多い中で若い人も集まれるまちとしてリニューアルを望む意見
- ・子どもが遊べる場所、保育所、幼稚園を増やすなど、子育てがしやすいまちづくりを望む意見

(3) 地域のまちづくり・都市環境に関する主要意見

- ・団地内の空家の活用を望む意見
- ・公共施設の跡地や市有地の活用によるまちの活性化を望む意見
- ・地域の身近な公園や近い避難場所の整備を望む意見
- ・外国人が住みやすいまちづくりを望む意見
- ・治安や防犯について対応策を望む意見
- ・要介護者や身体的に不自由な人のために交通機関の利便性の向上を望む意見
- ・下水処理場の臭い、バイクや自動車の騒音、ゴミの投棄、ルールについてなど地域の生活環境面について懸念する意見

(4) 地域コミュニティに関する主要意見

- ・町会やマンション管理組合とのつながりが無いなど、コミュニティの希薄化に関する意見
- ・「自治会や地域活動の担い手の多くが高齢者であるため、若い方にも関心をもってもらえる様な地域づくりになれば良い」といった意見
- ・「“引きこもり”の高齢者が多く、地域に馴染めず、孤独死も時々出ている」といった意見
- ・地域活動に取り組んでいる方に対して年齢制限をするなど、後継者の育成を望む意見

今回、モデルエリアにおける住民の皆さまにご協力をいただき、以上のような結果が出ました。

当該アンケート結果につきましては、医療・健康・介護・住まいなど様々なサービスを重ね合わせながら、市民の方々が済み慣れた地域で安心して住み続けられるようなまちづくりを進めていくための参考として活用させていただく予定です。

・スマートエイジング・シティについて… 大阪府市医療戦略会議 提言

(<http://www.city.osaka.lg.jp/seisakukikakushitsu/page/0000252730.html>)

